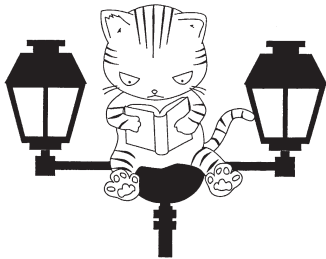


# 北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会  
 会長 浦田日出雄  
 事務局長 齋藤 昇一  
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>  
 印刷所 (株) 北海プリント  
 TEL (011)811-2396

## 第40回北海道学校図書館研究大会 小樽大会を終えて



北海道教育委員会、小樽市教育委員会をはじめ、多くの関係機関の多大なご支援をいただき、第40回北海道学校図書館研究大会小樽大会が開催できましたことに、心より感謝申し上げます。

細々とした活動しか続けてこなかった小樽市学校図書館協議会では、2年前に小樽市で第40回大会が行われることが決定した時は、会員の誰もが全道大会を運営できるのか不安な気持ちになりました。でも、この大会を契機に小樽市の図書館教育が少しでも活性化されることを期待し、「やるしかない。」と、声を掛け合いながら準備を進めてまいりました。

研究大会1日目は、市内の7会場で授業公開を行い、メイン会場の花園小学校において全体会・分科会が行われました。各分科会では、時間が足りなくなるほど熱心な協議が行われ、高い評価をいただくことができました。また、提言も大変充実した内容であり、全道各地からの素晴らしい実践がこの大会で交流できたことを嬉しく思います。重ねて、各会場の運営に対して、「先生方が一生懸命に運営されており、おもてなしの心が伝わりました。」など、参加者からの感想が多く寄せられたことも、運営委員の励みになりました。

2日目のセッションでは、図書館司書と博物館学芸員がものの調べ方と楽しさを語る「トークショー対決～司書と学芸員～」、文豪フィギュア制作者による「文豪たちのエピソード」、小樽観光大学マイスター講師と一緒に



に小樽運河周辺を歩く「小樽の歴史や文化を楽しみましょう」など、小樽ならではの内容も取り入れ、なるべく小樽らしさが出るよう工夫し、好評を得ることができたと思います。

さらには、児童文学作家の今西乃子さんによる「捨て犬・未来、命の授業」の講話をセッションで行い、多くの参加者に感動を与えていただきました。

工藤直子先生の記念講演では、「うたが生まれるとき」と題し、先生の人生観が伝わる内容で90分があっという間に過ぎてしまいました。講演後には、工藤直子先生の本が売り切れになり、サイン会には長蛇の列ができました。

運営面では、運営委員一人一人が、円滑な運営に努めました。浦田会長をはじめとする北海道学校図書館協会の役員の皆様、そして全道の学校図書館関係者の皆様のおかげで、無事大会を終了することができましたことに、心より感謝申し上げます。今回の大会において、学ばさせていただいたことをもとに、本市の教育の充実に一層努めていきたいと思っております。ありがとうございました。

(報告 小樽大会運営委員長 寺澤 真)

第40回 北海道学校図書館研究大会 小樽大会

学校図書館との新たな出会い

室蘭市立天沢小学校 高橋 未央

司書教諭の資格を持ち、市内の教育研究部会に所属していながら、何年もの間、本大会に参加はもちろん、学校図書館に関わる研究授業にふれることもなく過ごしてきました。毎年、とはいかなくても、何年かごとに学校図書館に関わる校務分掌につき、また、市内の課題図書選定会議や読書感想文の審査会に参加することで、学校図書館に接していると感じてきたのですが・・・もっとしっかり、もっとじっくり、考えたり、関わったりすることができる、ということがあらためてわかりました。



花園小の公開授業では、丁寧な学び方の指導をみせていただきました。百科事典にふれるだけでなく、使い方を身につける大切さ、また、それを教える方法を目の当たりにできてとても刺激を受けました。

ただ、百科事典をグループの数だけ揃えるのはなかなか・・・と感じていたところ、午後からの分科会では、その答えを教えてくださいと出来ました。苫小牧市のスクールメール便を活用した授業の実践発表をきかせていただき、教材準備にむけての考え方も知ることが出来ました。

担任しながらの学校図書館との関わり。これまで、なかなか時間がとれない中でのもの、というイメージでしたが、これからは、担任だからこそその関わり方、利用の仕方について工夫をしていきたいと思えます。また、学校の中での図書館から、市立図書館や市内の学校間との連携にも目を向ける意識を持ちたいと思えました。

全体会のなかでもお話がありましたが、観光地だけでない、おいしいスイーツだけでない、小樽の思い出を持ち帰ってほしいとのこと。私にとっては、学校図書館との新たな出会いが大きな思い出となりました。この思い出とともに、小樽大会に感謝いたします。

\*\*\*\*\*

最善のメディアを用意する

小樽市立松ヶ枝中学校 学校司書 渡辺 雅代

小樽市初の学校司書として小樽市立松ヶ枝中学校に着任して、4か月半。学校図書館で働くのが初めての私にとっては、今大会の全体会で、(公社)全国SLA 森田理事長より「学校図書館の現状と課題」の基調報告があったことが大変有難かったです。学校図書館が学校にとって、児童生徒にとっていかに大切なものであるか再確認するとともに、自分がこれから取り組むべき課題も見えてきました。



レジュメに追加して、司書の「選書・廃棄の説明責任」について話されましたが、胸に刺さりました。大きな図書館では、選書・廃棄はそのための委員会があって、一般図書館員にはほとんど関係のないことです。でも、学校という限られた利用者のための限られたスペースの学校図書館では、現在とこれからの児童生徒のために、最善のメディアを用意する。学校図書館司書はその大きな責任があることがわかりました。

広大な北海道の各地で、たくさんの方がその実現に向けて、日々熱く、忙しさと戦っておられることもわかりました。2日目のセッションが終わって、ほっとした瞬間に、次に行われる研究会へのお誘いを受けました。

今大会は、小樽大会ということで小樽市学校図書館協議会のみなさんは、細部にわたって準備に奔走されていました。本当にお疲れ様でした。将来「小樽の学校図書館がこんなによくなったのは、あの大会がきっかけだったよね。」と言われるようになるのではないかと思います。その日をめざして、私もその一員として、業務に取り組んでいきたいと思えます。みなさま、ありがとうございました。

## 「つながる 広がる学校図書館」を実感

苫小牧市立泉野小学校 司書教諭 鈴木 祐 亮

北海道学校図書館研究大会（以下、全道大会）は、私にとって2年に一度の楽しみです。算数や国語など教科の公開研究会はあちらこちらで開かれていますので、「授業を見に行きたい」と思ったときには扉は開かれています。しかし、「学校図書館を！」という研究大会はこの全道大会以外にはあまりみかけません。2年に一度「学校図書館を使った授業の可能性」をみることができる貴重な機会だと思っています。



今回の小樽大会で特に印象に残っているのは、「学校図書館で授業を行った」ということです。やはり、学校図書館の研究大会なので、学校図書館での授業をやらなかったらいつやるの！「今でしょ！」という気持ちをもっていましたから、小樽の先生たちの「学校図書館での授業を見せたい！」という熱意が、同じ学校図書館を研究する人間として大変うれしく感じました。また、その後の分科会では全道各地の実践が発表され、学校図書館の活用についての大きな手応えを感じる事ができました。そして2日目のセッション。私は「学校司書のいる学校図書館」の司会を担当しました。「小樽市学校図書館利活推進モデル校事業」によって今年度小樽市の小中学校に各1名配置された学校司書の方の実践が報告されました。小樽市の教育委員会もこの全道大会の実施をきっかけに学校図書館を「どげんかせんといかん」と動きだし、学校司書の配置にまで進んだ事を考えると全道大会を行う意義は大きいと感じました。また、このセッションの参加者は学校司書をされている方も多く、同じ悩みや苦勞をされていて、様々な情報交換や意見交流ができました。これも、全道大会の大きな意義だと思います。

同じ志の仲間がいること。それを感じる事ができるのがこの全道大会だと思います。今回の研究主題「つながる 広がる学校図書館」の通り、全道各地の仲間とのつながりや、交流することで広がったつながりを実感できた研究大会となりました。

## 不思議を信じるスペース

### ～ 第36回子どもの本のつどい小樽大会を終えて ～

北海道子どもの本連絡会 沼田 陽子

8月3・4日の2日間に渡り、小樽市にて北海道子どもの本のつどいが開催されました。毎年夏に子どもの本に関わる人たちが集まり、各地の実践発表や情報交換などが交わされます。この場所で得たパワーを明日への活動の原動力に変えることができる素晴らしい大会です。

今年は分科会が5つ、児童文学と国語教育、公共図書館と学校図書館との連携、小学校での読み聞かせ実践、書き手たちの創作批評、郷土の語り。子ども分科会は、本物の能舞台を使った狂言体験を行いました。実行委員のみなさんが地域の力を結集させながら、道内各地の実践者たちも幅広く活動を紹介しました。

基調講演は、絵本から幼年童話まで年10冊もの作品を出版されている富安陽子さん。富安さんは落ち着いた語り口で幼少時代からのエピソードを披露。妖怪話や不思議な話を眠る前に話してくれたお祖母さまとの思い出。富安の家系は「ホラ吹き」でした。と、厳かに語られたご家族が富安さんに仕掛けた大きなホラ話は、会場中が大きな笑いに包まれました。さすがストーリーテラーの富安さん、エピソードを語るリズムや間が絶妙で、時間を感じさせない講演会でした。

幼少期から、富安さんのご家族も含めて不思議を信じる心のスペースを常に潤わせていたからこそ、現在に至るまで創作を続けてこられたのだと思います。そして、富安さんの作品が、子どもたちから支持を受ける理由もそこにあるのではないのでしょうか。魅力的な物語の登場人物たちが、子どもたちに寄り添いながら、見えている世界だけでなく、ちょっと不思議な世界にひらりと導いてくれる楽しさが吸引力になっているのだと思います。



## ■ 全国学校図書館協議会夏期セミナー in 函館に寄せて

函館市立万年橋小学校 教諭 風間 睦月

8月5日・6日に(公社)全国学校図書館協議会「第18回学校図書館夏期セミナー」が、初めて函館で開催されました。このお話をいただいた時、函館が開催地に選ばれたことを光栄に思いつつ、どのようなお手伝いができるのだろうかと不安になったことを思い出します。運営面では、会長を中心に準備を進め、たくさんの会員の協力で前日準備や当日の運営をすることができました。函館市学校図書館研究会事務局を担当させていただいて2年目の私にとっては、函館の会員の皆さんの力を実感した2日間でした。全国各地から(遠くは長崎からいらっしゃられた先生も!)たくさんの参加者の先生方をお迎えすることができ、「函館に来てよかった。」とさせていただけたのでしたら何よりです。

セミナーでは、第一線でご活躍されている講師の方々の講義や実践発表、そしてワークショップを受けることができ、大変よい機会となりました。さすがに全国規模のセミナーは、ひと味違うと思いました。また、懇親会でも、貴重なお話を聞いたり海外の図書館の映像も見せていただいたりして、大変勉強になりました。

後日、函館では、運営講座(年に4回、会員の研修のために開かれています)で報告会が行われました。限られた講座にしか参加することはできませんので、貴重な報告を聞くことができました。どの講座内容も、それぞれに興味深いものでしたが、中でも、読書指導の『リテラチャーサークル』については、報告を聞いた会員から「ぜひやってみよう」との声が多く聞かれ、これから開催される運営講座の中で、実際にやってみようという計画を立てているところでした。夏期セミナーで得た学びを広げ、充実した学習活動や読書活動を子どもたちに提供できるようにしていこうと本研究会では考えています。

今回、実り多いセミナーに関わることができ、また、参加できたことに大変感謝しております。



## ■ 命のメッセージ～今西乃子講演会に参加して

札幌市立元町小学校 教諭 村山 知成

前日、前々日に開催された北海道学校図書館研究大会小樽大会の余韻も冷めやらぬ9月22日(日)に、中島公園内の北海道立文学館にて、著書である『捨て犬・未来 命のメッセージ～東日本大震災・犬たちが避難した学校』をテーマとした、ノンフィクション作家今西乃子氏の講演会が開かれました。今西先生は、前日に小樽市マリンホールにて上記研究大会のセッション講師を務めての2日連続の講演となりました。学校図書館関係者や開放図書館司書をはじめ、小学生の子どもから高齢者の方までたくさんの方が来場して、会は始まりました。

今西先生は、始めに東日本大震災の惨状を紹介、いまだに心癒えぬ状況であることを強く訴えました。さらに今回の震災で多くの避難所は動物の受け入れを拒否しなければならなかったこと、またそんな状況の中で動物帯同を認めた中学校の避難所があったことを参加者に語りかけてくれました。

「震災は神様が我々に与えた災害だけれど、帯同避難受け入れ拒否で生きることを絶たれた動物たちにとっては、人間のご都合で被られた‘人災’ではないか」という訴えに、心が「はっ」とさせられました。さらに、愛犬・未来との出会いと人間の勝手な行動から始まる動物虐待・放置、そしてそれら動物たちの行く末路などが克明に語られ、将来の社会を創っていく担い手になる子どもたちへ、どんな社会が理想なのかそしてその理想の社会を創っていくために必要なものは何なのかを、熱く語りまた参会者に問いかけていました。

「みなさんは、幸せな人生を送りたいですか?それとも不幸せな人生でいいですか?もし、幸せな人生を選ぶとしたら、どう生きていったらいいですか?大切にしなければならないことは何ですか?」



今西先生からの問いかけが耳について離れません。同時に自分はこれまでどう生きてきたのだろうと何度も何度もふりかえってみました。今回の今西先生の講演は、クラスの子もたちにもぜひ聞かせたいと思う、命のすばらしさを改めて実感できた講演でした。

## 第25回読書感想画中央コンクール・第1回全道コンクール実施要領

- 1 主催 公益社団法人全国学校図書館協議会 毎日新聞社 北海道学校図書館協会
- 2 後援 北海道・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会・北海道読書推進運動協議会・北海道国語教育連盟・北海道造形教育連盟
- 3 対象図書 (1) 自由読書(推薦「北海道青少年のための200冊」)(2) 指定読書(主催者が指定した図書)  
上記の中から本を選び、その読後感を感想画で表現する。
- 4 応募締切 **平成25年12月25日(水)**
- 5 応募資格 北海道内の小学校・中学校・高等学校に在学する児童生徒  
満20歳以下に限る。(1993年4月2日以降出生)
- 6 作品規定 ※感想画用紙は、画用紙・ケント紙・キャンバスボード・マニラ紙・ボール紙いずれでも可。  
(ワク貼りキャンバスや木製パネルなど厚みのある作品は不可)  
作品の寸法は、36cm×25cm以上で、55cm×40cm以下とする。  
※絵具は、クレヨン・パステル・水彩・油絵具など自由。版画・はり絵も可。  
(ただし、立体など厚みのあるものを貼付した作品及び破損しやすい作品は審査の対象としない。)  
※作品の裏面に、応募票・作画感想(200字以内)を貼付すること。  
作画感想は原則として自筆とする。  
※募集要項に合わないもの、読んだ本にある絵をまねたもの、ポスター、映画・ビデオ・DVD等の  
場面をまねたものは審査の対象としない。
- 7 応募に当たって  
※一人で自由読書・指定読書それぞれ各1点応募できる。  
※応募作品の著作権・出版権は主催者に帰属し、原則として作品の返却はしない。  
※作品は必ず在籍校に提出し、学校単位で応募すること。
- 8 応募先 ㊟060-8643 札幌市中央区北4条西6丁目1 毎日新聞社北海道支社  
『第25回読書感想画コンクール・第1回全道コンクール』係  
電話011-281-5252 FAX011-251-3551
- 9 審査 主催者が委嘱した審査委員により行う。
- 10 審査区分 ①小学校低学年(1・2・3年)の部 ②小学校高学年(4・5・6年)の部  
③中学校の部 ④高等学校の部
- 11 賞 1) 個人賞  
①最優秀賞 ②優秀賞 ③優良賞 ④奨励賞  
2) 学校賞～上記の①②③を受賞した児童生徒の在籍校  
※各部位上位各4点(自由2点・指定2点)、合計16点を北海道代表作品として中央コンクールに提出する。

	◎指定図書(書名)	著者名	出版社	税抜価格
小学校低学年	だいすき、でも、でもね	二宮由紀子・文 市居みか・絵	文研出版	1,300円
	ふしぎなやまびこしゃんかん	中島和子・作 秋里信子・絵	金の星社	1,100円
	アナベルとふしぎなけいと	マック・バーネット・文 ジョン・クラッセン・絵 なかがわちひろ・訳	あすなる書房	1,300円
	いつもみていた :ゆめをかなえた女の子ジェーン・グドール	ジャネット・ウィンター・作 まえざわあきえ・訳	福音館書店	1,400円
小学校高学年	希望への扉リロダ	渡辺有理子・作 小淵もも:絵	アリス館	1,300円
	母ちゃんのもと	福明子・作 ふりやかよこ・絵	そうえん社	950円
	嵐にいななく	L.S.マッシュューズ・作 三辺律子・訳	小学館	1,500円
	舟をつくる	関野吉晴・監修・写真 前田次郎・文	徳間書店	1,600円
中学校・高校	オフカウント	筑井千枝子・作 浅妻健司・絵	新日本出版社	1,500円
	あん	ドリアン助川・著	ポプラ社	1,500円
	大地のランナー:自由へのマラソン	ジェイムズ・リオードン・作 原田勝・訳	鈴木出版	1,500円
	わたしのウナギ研究	海部健三・著	さ・え・ら書房	1,300円
	義足ランナー:義肢装具士の奇跡の挑戦	佐藤次郎・著	東京書籍	1,600円



## 第46回北海道学校図書館研修講座へのご案内

**主催** ●北海道学校図書館協会  
**後援** ●北海道教育委員会  
 札幌市教育委員会  
**趣旨** ●学校図書館の運営及び情報・メディアを活用する学び方の指導、並びに読書指導に関する基本的事項について理解を深めるとともに、学校図書館の目指す方向と役割についての見識を深め、学校図書館の機能の向上を図ることを目的とする。  
**日時** ●平成26年1月7日(火)～9日(木)  
**会場** ●北海道立道民活動センター (かでの2・7)  
 札幌市中央区北2条西7丁目 ☎(011)204-5100  
 ●札幌市立厚別南中学校  
 札幌市厚別区大谷地東7丁目1-1 ☎(011)894-7311  
 ●札幌市中央図書館  
 札幌市中央区南22条西13丁目1-1 ☎(011)512-7320  
 →交通手段等は裏面の地図をご覧ください。  
**参加資格** ●学校図書館及び読書指導・学び方の指導に関わっている方ならどなたでも参加できます。  
**定員** ●150名  
**参加費** ●4,000円(資料代を含む)  
**参加申込** ●参加ご希望の方は、研修講座参加申込書に必要事項を記入して、12月2日(月)～19日(木)の期間に直接FAXにてお申し込みください。

**研修講座申込先**  
 〒004-0002 札幌市厚別区厚別東2条4丁目5-1  
 札幌市立小野幌小学校 山田佳子  
 TEL (011)898-0552 FAX(011)898-2749

### A. 共通講座

～参加者皆さんが受ける講座です。教育・学校図書館を取り巻く現状と展望について学びましょう。

**講演 「学校図書館の力」**  
 元藤女子大学 教授 渡邊重夫

### B. 選択講座：ファーストコース

1. 講義 「管理・運営」  
 札幌市立二条小学校 校長 中橋理子

2. 講義 「図書館活動」  
 札幌市立あいの里東中学校 司書教諭 浅村麻姫子
3. 講義 「読書指導」  
 札幌市立小野幌小学校 司書教諭 山田佳子
4. 講義 「情報・メディアを活用する学び方の指導」  
 札幌市立宮の森中学校 司書教諭 佐藤敬子

### C. 選択講座：ステップアップコース

1. 講義・実習 「ツポにはまる分類」  
 聖心女子中等高等学校 司書 新田裕子
2. 講義・実習 「ステップアップ・読書アニメーション」  
 札幌市立藻岩北小学校 司書教諭 佐藤広也
3. 講義・実習 「朗読を楽しもう」  
 元HBCアナウンサー・朝日カルチャー講師 安藤千鶴子
4. 講義・実習 「みんなでブックトーク」  
 南富良野町立金山小学校 校長 加藤宏明
5. 講義・実習 「一日まるごとクリニック」  
 旭川市立愛宕中学校 司書教諭 加藤直子
6. 講義・実習 「図書館を発信する！～人が集まる資料展示」  
 北海道立図書館北方資料室 主任 鈴木浩一
7. 講義・実習 「レファレンスの基本」  
 札幌市中央図書館業務課調査相談係レファレンス担当  
 皿井望美 小林可奈子 相澤聡也
8. 講義・実習 「学校司書の仕事」  
 石狩翔陽高等学校 司書 谷口初江

### D. 校種別選択講座

1. 討議 「図書館資料の活用とその指導～小学校」  
 室蘭市立旭ヶ丘小学校 司書教諭 長野加奈恵
2. 討議 「図書館資料の活用とその指導～中学校・高等学校」  
 聖心女子中等高等学校 教諭 松原今日子
3. 討議 「図書館資料の活用とその指導～特別支援」  
 旭川市立忠和小学校 教諭 萩野里香

### E. ナイター

1. 大人のビブリオバトル
2. 教えて！いいマンガ

### F. 指導者研修講座（第44回全道研究部長会）

1. 第40回北海道学校図書館研究大会(小樽大会)の反省
2. 支部研究交流  
 各支部研究部長  
 北海道学校図書館協会研究部長 佐藤敬子 (札幌市立宮の森中学校 司書教諭)  
 北海道学校図書館協会事務局長 齋藤昇一 (札幌市立藻岩中学校 校長)

### ～研修日程～

**1月7日(火)〈かでの2・7〉 ※4階大会議室に直接お越しください。**

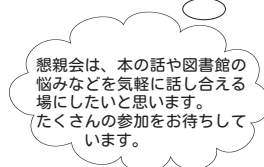
9:30	10:00	10:25	12:00	13:15	14:40	16:30	18:00	20:00
受付	開講式	A. 講演	昼食	B1. 管理・運営	B2. 図書館活動	E1. ビブリオ E2. マンガ		
				C1. ツポにはまる分類				
				C2. アニメーション				
				F1. 研究部長会				

**1月8日(水)〈かでの2・7、厚別南中学校、中央図書館〉**

9:30	12:00	13:15	14:45	16:30	18:00
C3. 朗読	昼食	B3. 読書指導	B4. 学び方の指導	懇親会	
C4. ブックトーク		C7. レファレンス(中央図書館)			
C5. クリニック(厚別南中)		C5. クリニック(厚別南中)			
C6. 資料展示		C8. 学校司書			
F2. 研究部長会					

**1月9日(木)〈かでの2・7〉**

9:30	11:30	11:50
D1. 討議〈小〉	閉講式	
D2. 討議〈中・高〉	閉講式	
D3. 討議〈特別支援〉	閉講式	



## 学校図書館情報

### ◆ 「本と旅する 本を旅する」 2013年

#### 第67回読書週間

標語入賞者、平佐大輔さん（北海道）の言葉。「旅とは非日常の体験。読書は日常の中で、非日常を体験。ここではないどこかの景色を眺めつつページをめくると、双方が微妙に入り交じり、なぜかいつもより登場人物や取り巻く世界観に強く思い入れてしまうことがあります。そんな感覚って素敵ですよね。」



◆ 4月、子どもの読書活動優秀実践校の文部科学大臣表彰、昨年度に続き今年度も北海道だけ該当無し！「これでもいいのか？北海道」

◆ 6月21日、文部科学省は「都道府県及び市町村における子ども読書活動推進計画の策定状況に関する調査結果について（平成25年3月31日現在）」を公表しました。

調査結果は、文部科学省「子ども読書の情報館」サイトに掲載されています。

北海道は、179市町村中、86市町村（48.2%）で策定済みです。策定作業中が22市町村（12.3%）、検討中が35市町村（19.6%）、予定無しが36市町村（20.1%）です。

◆ 8月、文部科学省は「学校図書館担当職員の役割及びその資質の向上に関する調査研究協力者会議」を設置しました。

この会議では、「専ら学校図書館に関する業務を担当する職員（学校図書館担当職員）」について、その必要性が広く認識されるようになってきたことや今後配置が進むであろうことをふまえ、

- (1) 学校図書館担当職員の担うべき役割・業務について
  - (2) 学校図書館担当職員の質の確保を図るための方策について
  - (3) その他
- について調査研究を行います。

これまでに3回の会議がもたれています。その会議の資料は、文部科学省のホームページで見ることができます。

## 事務局

事務局長 齋藤 昇一（札幌市立藻岩中学校校長）  
TEL 011-571-6039  
FAX 011-572-3333  
事務局校 札幌市立平和通小学校  
事務局次長 野村 邦重  
〒003-0027 札幌市白石区本通15丁目北3-1  
TEL 011-863-0235 FAX 011-863-0265

## Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

## キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15  
TEL (011) 857-3331  
FAX (011) 857-5211

◆ 9月2日、(公社)全国SLAが「『はだしのゲン』の利用制限等に対する声明」を発表しました。  
全国SLAのHPをご覧ください。

◆ 10月、J P I C主催で「読み聞かせサポーター実践講座」開催（札幌市）

講師は、作家浜田桂子さん、親地連代表広瀬恒子さん、読書アドバイザー児玉ひろ美さん、おはなしおばさん藤田浩子さんという豪華な顔ぶれ。実践的で具体的な研修と交流でした。

◆ 第59回青少年読書感想文全道コンクール  
第39回北海道指定図書読書感想文コンクール

多数の応募、ありがとうございました。  
全道審査は、10月14～26日に行われます。

**表彰式** 12月1日(日)10:00～12:00  
札幌センチュリーロイヤルホテル  
(札幌市中央区北5条西5丁目)

## 編集後記

10月に入り寒暖の差の激しい日が続いていますが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。さて本号は、9月に開催された第40回北海道学校図書館研究大会小樽大会を中心として、8月の北海道子どもの本の集い、全国SLA夏期セミナーなど各地で開催された様々な催しについての報告を掲載しています。また、今年度より新たに始まる読書感想画コンクールについてもお知らせしていません。記念すべき第1回目のコンクールに全道各地から多くの応募を期待しております。

（編集：齋藤 昇一 杉本 操 村山 知成）  
大久保雅人 野村 邦重

ホームページアドレス  
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>